

With



—東京労災病院の理念—
命の輝きを共有できる病院

東京労災病院病診連携誌 “ウィズ”

August 2023



撮影者：院長 杉山 政則

CONTENTS

【東京労災病院診療科のご案内】

- ▶ 循環器科・糖尿病・内分泌内科 … 下肢閉塞性動脈疾患への取り組みについて
- ▶ 整形外科 … 骨粗鬆症治療と二次性骨折予防推進について
- ▶ 令和5年度医療連携懇話会 開催のご報告
- ▶ 放射線治療科 … その「がん」、放射線治療がお役に立てるかもしれません！

▶ 循環器・糖尿病・内分泌内科

(循環器科部長 吉玉 隆 糖尿病・内分泌内科部長 桑原 公一郎)

一下肢閉塞性動脈疾患への取り組みについてー

近年、増えつつある下肢閉塞性動脈疾患（lower extremity artery disease：LEAD）は、以前からの名称である下肢閉塞性動脈硬化症（arteriosclerosis obliterans：ASO）と同義です。この20年余り、様々なエビデンスが明らかになり、飛躍的な道具の進化も相まって、多くの血管内治療（endovascular treatment：EVT）が行われるようになりました。当院においても、糖尿病患者や透析患者の増加に伴って多くの患者様の紹介を受けております。皮膚科、整形外科のご協力の元、切断や創傷ケアを含めたハイブリッド治療を行っております。糖尿病の初診患者さまには全例スクリーニング検査として脳波検査（ABI）を行っています。

【症例：膝下動脈閉塞 LEAD：70 代男性】

- 主訴：右下肢の歩行時痛（間欠性跛行）
- 現病歴：数年前から主訴を認めたが増悪傾向であり循環器内科を受診。ABIは測定不能であり造影CTで10年前に同様の症状のため施行した左大腿ー膝窩動脈バイパスが閉塞していることが判明し下肢動脈カテーテル治療を施行することとなった。
- 既往歴：糖尿病、心房細動、脳梗塞



下肢動脈CT画像：右膝下動脈閉塞

治療前
右遠位浅大腿動脈から膝窩動脈
の閉塞



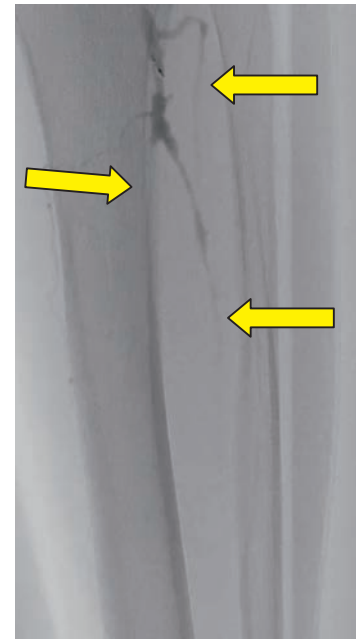
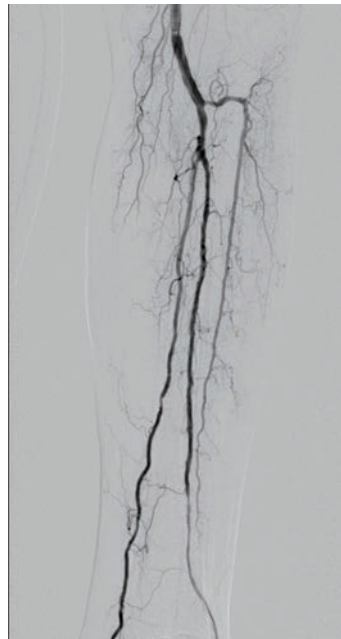
治療後
薬剤溶出性ステント＋薬剤コー
テッドバルーン



血管内治療（endovascular treatment：EVT）

【症例：包括的高度慢性下肢虚血 (chronic limb-threatening ischemia: CLTI、90代男性)】

- 主訴：両足安静時疼痛
- 現病歴：CLTIの既往あり6年前に左第I-V中足骨切断した。最近になり左踵の小潰瘍と両足の安静時痛を認めたため来院した。ABIは、0.90/0.83 (←1.14/1.07)と低下していたため、EVTスタンバイで下肢動脈造影を行った。
- 既往歴：高血圧、糖尿病、慢性腎臓病 (Cr 1.79, eGFR 28.0)



6年後

下肢動脈造影：左膝下動脈以下の閉塞：→閉塞部位



左踵の小潰瘍



6年前に左第I-V中足骨切断

EVTは成功したが、短期間で閉塞するような症例も認められる。今後さらに合併症を多く持つ高齢者が増えてくるものと思われます。他科との連携や多職種によるチーム医療で、今後も積極的に介入して地域医療に貢献していきたいと思います。



【循環器科】左から高橋、鈴木、吉玉部長 (副院長)、浅原、中村、高亀

【糖尿病・内分泌内科部長の紹介】

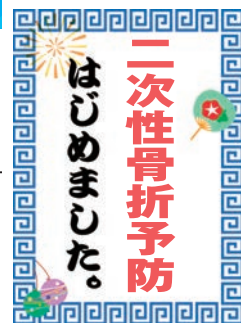
桑原 公一郎 (くわばら こういちろう)

- 東京大学医学部医学科卒
- 東京大学大学院医学系研究科卒
- 博士 (医学)
- 認定医等：
 - 日本内科学会 (認定内科医／総合内科専門医／指導医)
 - 日本内分泌学会 (内分泌代謝科 [内科] 専門医／指導医)
- 専門分野：内分泌代謝



▶ 整形外科

骨粗鬆症治療と二次性骨折予防推進 — これまでの当院での骨粗鬆症の治療介入 —



当院では、2014年8月から、「手外科センター」を開設しており、多くの手や肘の外傷・疾患を治療してきました。特に橈骨遠位端骨折治療に関して年間50例以上掌側ロッキングプレート固定を施行していますが、術後の骨粗鬆症の治療介入はほとんどされていない現状がありました。

以下には、2018年1月～2019年12月までの調査期間で、掌側ロッキングプレート固定を施行した112例のうち50歳以上の症例97例の骨粗鬆症の治療介入を報告します。

手術前後での骨密度測定の有無

手術前	手術後	症例数 (%)
あり	—	11例 (11.3%)
なし	あり	17例 (17.5%)
なし	なし	69例 (71.1%)

97例中69例(71%)に対し、骨密度測定されていなかった

手術前後での骨粗鬆症の治療介入の有無

手術前	手術後	症例数 (%)
あり	あり	27例 (27.8%)
なし	あり	5例 (5.1%)
なし	なし	65例 (67.0%)

新規治療介入は97例中5例(5.1%)

骨密度測定方法：DEXA法（YAM値）主に腰椎、大腿骨近位部で測定

橈骨遠位端骨折は脆弱性骨折の連鎖のはじまり、今後は二次性骨折予防がますます重要になってきており、骨粗鬆症の治療介入の必要性を我々は実感しました。

骨粗鬆症治療継続と二次性骨折予防推進の 新たな地域医療連携体制の構築に取り組む

2022年度の診療報酬改定で二次性骨折予防継続管理料および緊急整復固定加算、緊急挿入加算が新設された。以下、3つの施設要件に分けられている。

イ 二次性骨折予防継続管理料1

ロ 二次性骨折予防継続管理料2

ハ 二次性骨折予防継続管理料3

イ＝急性期病院 ロ＝回復期病院 ハ＝外来・診療所

急性期～維持期まで、二次性骨折予防への取り組みが診療報酬で評価される仕組み。

当院でも骨折リエゾンサービス（FLS）チームを設立し、二次性骨折予防継続管理料を算定した上で、今後は診療所と当院との連携を推進していきたいと考えております。

～二次性骨折予防継続管理料3を算定される医療機関様へ～

「二次性骨折予防継続管理料1」を算定している患者様には「二次性骨折予防継続管理料算定連絡票」を添付しております。詳しくは当院ホームページもご参照ください。



FLSチームメンバー 骨粗鬆症学会認定医（2名）

平澤 英幸
熊谷 圭一郎

看護師、薬剤師、放射線技師
管理栄養士、理学療法士

▶ 令和5年度医療連携懇話会 開催のご報告

2023年7月20日(木)、プラザ・アペア(蒲田駅)にて4年ぶりに医療連携懇話会を開催いたしました。当日は連携施設の77名(45施設)の方々にご来場いただき、盛会のうちに終えることができました。改めて地域医療機関の方々のご期待に添えるよう努めてまいりますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

〈診療科紹介〉

- | | |
|--------------------------------------|----------------|
| ①「東京労災病院消化器外科の診療紹介」 | 消化器外科部長 小林 隆 |
| ②「東京都がん診療協力病院指定にあたり当院呼吸器センターの診療について」 | 呼吸器内科部長 河野 正和 |
| ③「東京労災病院の放射線治療について」 | 放射線治療科医師 豊福 康介 |



院長あいさつ

消化器外科部長
小林 隆

呼吸器内科部長
河野 正和

放射線治療科医師
豊福 康介



懇親会の様子

▶ 放射線治療科 (担当医 豊福 康介)

○ 放射線治療のご紹介をお待ちしております

その「がん」、放射線治療がお役に立てるかもしれません！

【特徴】

がんを正確に狙い撃ちし、体への負担が少ない“切らない”がん治療です。
平日1日1回、通院で働きながらの治療が可能です(※抗がん剤併用を除く)。
根治治療だけでなく**症状緩和**、一部**良性腫瘍**にも役立ちます。

【目的】

放射線療法目的別名称と目標

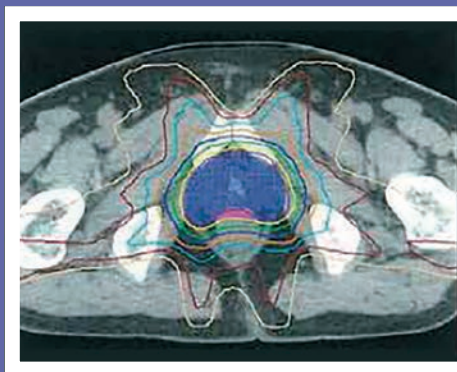
- **根治的放射線療法**：
目的：がんの治療・明らかな長期生存を目指す
目標：大量の放射線を、高い位置精度で照射する
- **緩和的放射線療法**：
目的：がんによる苦痛を低減し、QOLを維持する
目標：必要最小限の放射線を、可及的早く照射する
- **緊急放射線療法**：
目的：急速に悪化する重篤な症状や生命に関わる危機を回避する
目標：24～72時間以内に緩和的放射線療法を行う
公益社団法人 日本放射線腫瘍学会作成資料より

【具体的には・・・】

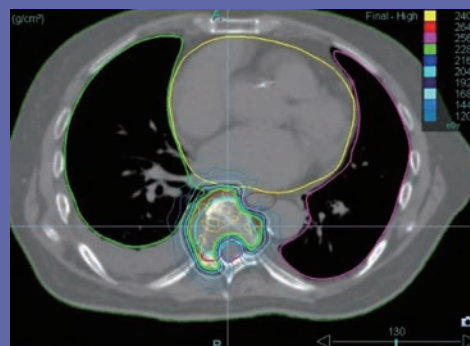
- ① **ほとんどの固形がん**
脳腫瘍、頭頸部がん、肺がん、乳がん、食道がん、肝臓がん、膵臓がん、前立腺がん、子宮がん etc…
→ 照射回数 25～35回 (定位照射では1～8回)
- ② **緩和治療**
がんに伴う痛み、気道狭窄、通過障害、出血、上大静脈症候群、脊椎転移による脊髄障害 etc…
→ 5～15回 (定位照射では2回)
- ③ **良性腫瘍**
ケロイド、甲状腺眼症、動静脈奇形、髄膜腫、聴神経腫瘍 etc…

【治療例】

① 前立腺がん



② 骨転移



定位照射など高精度治療も行っております

◎診療を希望される際は、事前に**地域医療連携室**にご連絡をお願いいたします。

緊急の場合は**当日でも対応いたします**。お電話でご相談ください。

その他、適応のご相談だけでも構いません。

※**当院救急車等によるお迎えや、入院での治療も可能です。**

東京労災病院放射線治療科では **定位放射線治療**を実施しております

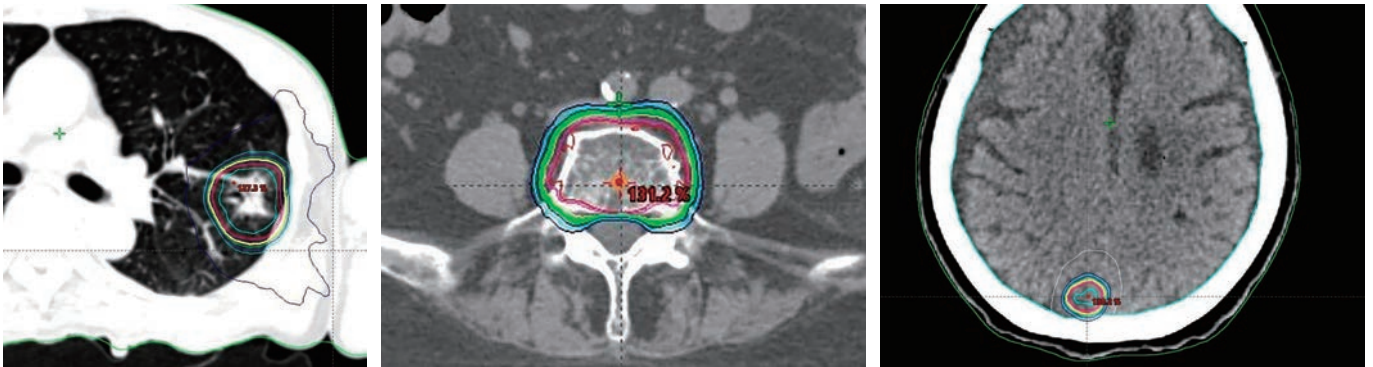
定位放射線治療の特徴

1. 「切らない」 がん治療
2. 通院で、短期間で治療できる
3. 病変への高い線量集中性

【当院で治療可能な疾患】

- 原発性肺がん（長径5cm以内かつ転移のないもの）
- 転移性肺がん（長径5cm以内かつ3個以内、他病巣のないもの）
- 転移性脳腫瘍（長径3cm程度まで、1～2個、良好な全身状態）
- 原発性肝細胞がん（長径5cm以内かつ転移のないもの）
- 転移性肝腫瘍（長径5cm以内かつ3個以内、他病巣のないもの）
- 転移性脊椎腫瘍（長径5cm以内）

（今後、前立腺がんへの照射を予定しております）



【具体的には…】

- 治療回数：3～5回程度（病変の部位や大きさなどによって異なります）
- 通院可能 ※入院をご希望される場合は事前にご相談ください
- 照射範囲のずれを5mm以内にする技術を複数使用

【ご紹介について】

◎事前のご予約をお勧めいたします◎

診察のご予約

「地域医療連携室」にて電話予約を承ります。

電話番号：**03-3742-7129** (直通)

受付時間：月曜日～金曜日 8:15～17:00

* ご予約は、受診希望日の前日 15:00 までとなります。

* 「眼科」は診療体制の都合上、月・水曜日 8:15～11:00
の間に直接ご来院いただきますようお願いいたします。

診察予約が無い場合

受付時間：月曜日～金曜日 8:15～11:00

受付時間内に総合受付①番窓口へお越しください。

救急のご依頼

「地域医療連携室」へご連絡ください。

電話番号：**03-3742-7129** (直通)

夜間・休日は救急受付にて対応いたします。